

共生

奈良県生協連

2021年 4月

NO.120



3.11企画 映画「星に語りて」上映



田崎 飛鳥さん 絵画展示

もくじ

2021年奈良県生協連方針……………	1	講演会 コロナ禍と気候危機～COP26に向けて広がる	
2030年ビジョンに向けて……………	2	『実質ゼロ宣言』と新時代の気候アクション～…	6
中桐万里子氏講演会～二宮金次郎から協同組合を学ぶ…	3	「核兵器禁止条約発効歓迎」声明文……………	7
3.11企画 映画「星に語りて」……………	4	行政関連……………	8
おじゃました 番外編2～コロナ禍のフードバンク奈良…	5	奈良県生協連30年のあゆみ……………	9・10

奈良県生協連 2021年度の活動に向けて

コロナ禍で今までのような形での活動が制限され、“人と人とのつながり”と“対面”を重視してきた奈良県生協連の活動の見直しを余儀なくされました。SDGs「誰一人取り残さない」の推進を会員と共に取り組み、この厳しい状況を連帯の力で乗り切っていきます。

また、先行きが不透明な中で今後の奈良県生協連2030年ビジョンの策定の必要性を判断し、ビジョン検討を開始しました。

(1) 協同組合の理念を広げ 協同の心が息づく取り組み

◆協同組合間協同

- 日本協同組合連携機構(JCA)を通して全国の協同組合との交流と関係強化を図ります。
- 奈良県協同組合連絡協議会のもと奈良県協同組合デーを開催します。
- JCAが提唱された円卓会議を基にコロナ禍や地域課題から困っていることを出し合い、解決策を導き出します。

◆行政とのコミュニケーション

- 生協行政協議会を開催し、奈良県行政と意見交換を行います。
- 「食の安全懇談会」を開催しコミュニケーションを図ります。
- 近畿地区生協府県連の行政合同会議や近畿農政局懇談会等の意見交換会に参加します。

◆協同組合理念の学びの場づくり

- 奈良県生協大会を開催します。
- 会員生協役員研修、生協組合員理事交流会を開催します。
- 「2030年奈良県生協連のビジョン答申」を策定し、「奈良県生協連のありかた」を理事会、会員生協の集う場で協議し、深耕します。

(3) 社会的諸課題を学び考える場づくり

- 食の安全懇談会を開催し、消費者をとりまく食品安全の現状を学びます。また、食の安全に関するリスクコミュニケーションや学習会に積極的に参加します。
- 被爆体験集「奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い」は、証言を継承するために平和学習のツールとして活用します。
- 「ピースアクション in なら2021」を開催します。
- 大学生による平和活動「Peace Now! 奈良」に協力します。
- 農業問題、公共料金、社会保障と税等、くらしをとりまく諸問題について近隣諸団体との連携により会員への情報提供や学習を行います。

重点課題

- (1) 協同組合の理念を広げ協同の心が息づく取り組みをすすめます
- (2) 諸団体と連携・協同し、安心してらせる地域共生社会づくりに参加します
- (3) 平和とよりよいくらしの実現のための社会的諸課題を学び考える場をつくります
- (4) 会員生協の交流と連帯をすすめます

(2) 諸団体と連携・協同し、安心してらせる地域共生社会づくりへの参加

◆消費者市民社会の形成に寄与する取り組み

- なら消費者ねっとの2022年適格消費者団体認定を支援します。
- 消費者支援機構関西(KC's)の活動に参画します。

◆住み慣れた地域で誰もが安心してくらすための協同

- 「奈良こども食堂ネットワーク」に参加し、「フードバンク奈良」「こども食堂」などに協力します。
- コロナ禍による健康への不安と関心が高まる中で、奈良県医療福祉生協と一緒に健康づくり運動に取り組みます。
- 新型コロナウイルスの感染拡大による事業や活動への支援を会員生協とたすけあって乗り越えます。

◆地域防災と被災地支援

- 災害時の緊急物資備蓄や災害復興支援の協力等について、奈良県防災統括室と懇談の場を持ちます。
- 奈良防災プラットフォーム連絡会に参画します。

◆自然・くらし・エネルギーの地域共生

- 再生可能エネルギーをすすめる県内諸団体と連携し、学習や情報交流をすすめます。
- 吉野共生プロジェクトに引き続き参加し、奈良県南部東部の活性化を応援します。
- 健康・省エネ住宅推進の取り組みに協力します。

(4) 会員生協の交流と連帯

- 会員生協役員研修会、生協組合員理事交流会の開催。
- 大学生協学生委員と平和活動等での連携・交流。
- 奈良県医療福祉生協のいのちと健康を守る事業を応援します。
- コロナ禍の影響を踏まえ、引き続き大学生協職員の雇用先紹介や購買支援、その他の支援にも取り組みます。
- ホームページを活用し、活動報告を積極的に公開します。また、生協連のホームページを見直し、情報発信力を高めます。

2030年奈良県生協連ビジョンに向けて

2009年に答申された「奈良県生協連の将来ビジョン(県連あり方検討会答申)」を振り返り、「2030年にありたい姿」に向けてビジョン検討委員会を立ち上げ、協議を始めました。奈良県生協連(以下：生協連)は、これからも会員生協の健全な運営と事業の広がりを支援し、また消費者団体としての姿勢を堅持し、行政や諸団体とパートナーシップを図りながら地域共生社会づくりに取り組めます。

1. ビジョン検討の経緯

2010年の創立20周年を前に、将来にわたって奈良の地で生協が組合員のくらしを守り、地域社会と共に成長し、社会貢献できるように生協連の役割など、生協連のあり方を会員生協と議論を進め、生協連の将来ビジョン「奈良県での生協の発展をめざして」として【県連の3本の柱】と【具体的な課題】を整理しました。

10年以上が経過し、新型コロナウイルス感染拡大で社会が大きく変化し、30周年記念事業を通じてビジョンの見直しに取り組むことになりました。ウイズコロナと言われるようにこれからはコロナありきの活動を進めて行く必要があります。

【県連の3本の柱】

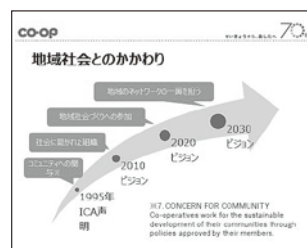
- I 奈良県生活協同組合連合会は生協法と定款に掲げる目的を達成するために、会員のための連合会として会員生協の健全な発展のための支援をし、生活協同組合の地域社会の窓口としての役割を果たします。
- II 生活協同組合は消費者が出資しくらしに貢献するための事業を行っている協同組合です。ICA声明が謳う協同組合の定義と価値の精神にのっとり、事業体と消費者運動体の両方の性格を持つ組織として、社会での自助と公助を繋げる共助の役割を発揮し、協同組合理念と協同組合事業を広め、存在価値を地域社会の中にアピールします。
- III 県連会員とのネットワーク、全国生協とのネットワーク、県行政や諸団体など対外的なネットワークに加え、会員生協の枠を越えたさまざまな活動をする組合員・職員など個人とも連携し、活動拠点としての役割を目指します。将来、消費者課題など他団体とのネットワークによる環境を整えば新しい消費者組織を設立することも考えます。

<二村氏資料より>

2. ビジョン検討にあたって

3月1日に第一回ビジョン検討委員会で協議し、情勢認識が重要とのことから日本生活協同組合連合会運営・組織担当 二村睦子常務執行役員から「2030年に向けた生協の課題と県生協連への期待」をテーマに「日本の生協の2030年ビジョン」

「コロナ禍の社会とくらしの変化」「生協のこれから」「地域社会の課題と生協」について講演いただき、会員、ビジョン検討委員24名(オンライン22名・実出席2名)が参加しました。これから「2030年ビジョンの3本の柱」を協議した上で理事会、ビジョン検討委員会、会員生協の集う場で「奈良県生協連のあり方」を具体化していきます。



二宮金次郎から 協同組合を学ぶ



中桐万里子さん講演会(生協組合員理事交流会)開催

2020年12月17日に生協組合員理事交流会で、中桐万里子さんをお招きし、「二宮金次郎から協同組合を学ぶ」をテーマで講演をしていただきました。会場参加とオンラインで、49名が参加しました。

中桐さんは、二宮金次郎の7代目です。はじめに、皆さんが小学校などでよく見かけた金次郎の像から講演が始まりました。薪を背負って本を読む姿は「勤勉」と「勤労」のイメージですが、大事なのは一歩踏み出している足元です。金次郎は、“くじけず”“あきらめず”どんな時も「一歩踏み出す」ことを大切にしていました。

中桐さんのエネルギーで、臨場感たっぷりのお話から、二宮金次郎が大切に「思想」と「実践」が、今日につながる「協同の礎」を学びました。金次郎は、“冷夏”や“自然災害”から600以上の農村再建・復興に尽力されました。その実践の中から、多くの考え方＝生きる指針を学ぶことができます。

■中桐万里子さんの講演から■

「“どうせ～だから”“～が悪い”と思うと、『見えなくなる』。『よく見る』ことを大切にする」「不都合な相手も“好きにならなくてもよい”。どんな人とも向き合っていく。相手を知ること、見ること、わかることを大切にし、『手を取り、活かしあっていく』」「狩猟型(奪い合う)ではなく、農耕型(条件を生かし、生み出すことを知っている)」「怒りの“なんで”ではなく、観察の“なんでかな”を大切にする」「“give and take”ではなく“take and give”(恩返し)の発想＝幸せだから頑張る)金次郎は“takeの達人”」「“めばった樹”とは、成長の遅い小さな低い樹のことです。しかし、この樹は他のものに比べ、年輪が密となり、そしてその根は縦に深く張り、雨風に強い樹に育ちます。人も上面で判断するのではなく、奥にある本当の姿を見るようにしたいものです」
「“積小為大”(せきしょういだい)：小さいことを積み重ねると大きな事になる。だから、大きな事を成し遂げようと思うなら、小さい事をおろそかにしてはいけない」「水車をたとえに、まず“飛びこむ”ことから始める。水車と川は全く違う者同士だが、お互い無理せず、活かしあっていく中でエネルギーが生まれる」

金次郎の言葉や実践の中で示された考え方や様々なキーワードは、自然と人、自分と相手、かかわる人々との関係における、今日の私たちの生き方・考え方に通じる言葉として、参加者の心に響きわたったようです。

★参加者からたくさんの感想をいただきました。

論理的なお話だけでなく、好きになる必要はないとか、頑張っているのは自分だけじゃないなど、感情面で納得できるポイントが多々あり、今日のお話を何度でも見直して取り入れていきたいと感じました。

「まずは知ること、そして行動すること」「観察が大事だということ」自身の生活を振り返った時、反省することが多くありました。色んなこと(すべてのこと)に向きあうことの大切さを考えたいと思いました。「減点法ではなく加点法で考えていくこと」小さなことを声に出してそれを生かしていくことを実践していきたいです。

「めばった樹」のことが印象的でした。一般的には成長の悪い、出来の悪いものはダメと決めてしまうけれどそんなものも頑張っている。他のものにはない良い点がある。よく見るといろんなことに気づく。そして、そこから行動することが大切。普段の生活にもいろいろ活かすことができる内容だと思いました。

どんな困難や試練に出会っても、決してマイナスに捉えずに、不都合な相手とも向き合う、心の眼で見る、表面だけでなく深いところに思いをはせる、そうすることで、新たな道が開ける。多くの先人が幾度となく訪れた試練や苦難を乗り越えてくれたからこそ、今の私たちが生きる世界が存在するということを改めて実感しました。

「星に語りて」映画会を開催しました。



会場の様子

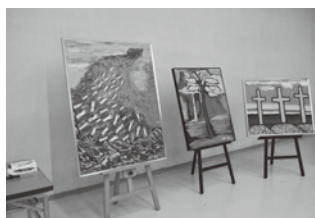
物のモデルとなった田崎飛鳥さんの絵画3点を陸前高田からお借りし展示させていただきました。

3月13日奈良県文化会館小ホールで、きょうされん40周年企画映画「星に語りて～Starry Sky～」をきょうされん(旧称:共同作業者全国連絡会)奈良支部、「田崎飛鳥絵画展」を奈良で実現する会(ならコープ有志3名)と共催、上映し71名(スタッフ13名含む)の参加がありました。当日は会員生協、奈良県生協連、南相馬から被災して奈良に避難してこられた「のまはら」(旧:奈良県被災者の会)の東北支援の取り組みをパネル展示しました。また、映画の登場人



東北支援パネル展示

★ 二つの出会いが教えてくれた「被災地を忘れない」 ★



田崎飛鳥さんの絵画3点

岩手県陸前高田市の田崎飛鳥さんの絵との出会いは、ならコープの東日本大震災支援活動(ボランティアバス)を機に交流を始めた同市在住で現在91歳のSさんからのご紹介でした。田崎さんのご自宅で見せていただいた、被災後初めて描かれた「希望の一本松」に“絵が語っている!!”の衝撃。被災された方の心を語る絵の力を被災地から遠く離れた奈良の人々に届けたい、“被災地を忘れない”を共有したいと、奈良での絵画展を企画し、2017年3月多くの個人・団体の賛同と協力を得て、絵画展を開催しました。

そして、一昨年初、大震災の中での障がい者がどのような状況であったかと支援者の活動を記録した映画「星に語りて～Starry Sky～」が、知的障がいをもつ飛鳥さんと通所される施設がモデルに描かれたことを知りました。映画の中の「障がい者が消えた」の言葉…避難所に障がい者がいない、なぜ?…支援者たちは障がい者を探しに奔走します。映画は、陸前高田市と原発事故による避難指示が出された南相馬市での支援活動を描いています。

震災から10年、私たちは復興がどこまで進んだかに目を向けがちですが、誰もがいつどこで災害に遭うかわかりません。そして、今、世界中で取り組むSDGsに掲げられた「誰一人も取り残さない社会」の実現は、まず社会の中の弱い人たちから目を反らさないことです。この映画は、あらためて、災害時に何が大事か、何をしなければならないかを考えさせてくれます。

映画会は終わりましたが、まだまだ観る機会があります。自分たちで上映会を企画することもできます。ぜひ、もっともっと多くの方に観ていただいて、誰も取り残さない社会をつくる一助になればと思います。みんなで協同しましょう。

「田崎飛鳥絵画展」を奈良で実現する会(ならコープ有志3名)

● 当日寄せられた感想 ●

泣きました。10年前の地震、津波の被害に改めて悲しみを感しました。そして人と人がつながっていく、自分ごとになることが一番大切なことだと感じました。最後に希望もありとても良かったです。

生きていくことにいっぱいになった時、その回りに障がい者がはいてるだろうかという事を考えさせられました。ふだんから一緒にいることの大切さを思いました。

被災地で、「障がい者」が取り残される現実、私たちは知ることなかった事でした。障がい者も健常者も一緒に生活し、皆と一緒に活動、生活出来ることが大切だと思いました。

おじゃましました// コロナ禍のフードバンク奈良

～番外編2～

奈良でも新型コロナウイルス感染拡大の第3波により感染者は増加し、飲食業、観光業では来客数が減り、経済的な打撃を受けています。打撃は甚大で、収入が激減し仕事なくなるなど大変厳しい状況に置かれている方が大勢おられます。奈良県生協連もかかわるフードバンク奈良では市町村社協や行政からの要請も多くなりました。前回に引き続き状況をお伝えします。

フードバンク奈良の活動は拡大

フードバンク奈良では、設立時から子ども食堂だけでなく、厳しい状況に置かれる方を支援している団体にも、月2回食品を配布してきました。現在では登録団体は100を超えています。コロナ禍で、町や市の社会福祉協議会からも、生活に困って相談に来られる方に渡せる食材を求められることも多くなりました。以下が、2020年度フードバンク奈良が実施してきた事業です。

- ① 3～4月 臨時休校に伴う学校給食食材の配布
(橿原市・香芝市など複数市町から奈良県の支援を受け福祉団体等へ配布)
- ② 4～5月 子ども支援プロジェクト(就学援助・児童扶養手当を受給している子育て家庭 222世帯に食材郵送・奈良ロータリークラブ等と共催)
- ③ 5～6月 奈良市学校給食食材配布(常温管理食材12.2トン冷凍食材4.5トンを県内福祉団体や子ども食堂等のべ45団体に配布)
- ④ 12月～ 奈良市フードバンク事業委託センターの運営管理。冬・春・夏休みになる前に年3回、就学援助・児童扶養手当を受給している奈良市内の子育て家庭に食品を配布。12月20日前後に実施し、3月は20日前後に配布予定。詳しくは奈良市HP(奈良市フードバンク事業)をご覧ください。

「奈良市フードバンク事業」とは

奈良市では、食品を企業や個人から寄付していただき、新型コロナウイルス感染症拡大によって社会的・経済的影響を受けやすいひとり親家庭や、子育てをしている生活困窮家庭に無償で提供する事業を2020年12月から開始。フードバンク奈良がその事業を受託。12月に3日間奈良市役所玄関ホールでフードドライブを実施し、市民から1185.5kgの食品の寄付があり、フードバンク奈良に企業から寄贈された食品を合わせて食材を確保。フードパントリー(取りに来ていただく)を12月20日前後に市内6か所の公共施設等で実施されました。用意できる限界の500世帯分以上の申し込みがあり抽選となりました。公民館での受付では民生児童委員、地区社会福祉協議会、ボランティアの皆さんがお手伝いくださり、460名の方に1世帯当たり約5キロの食品(2キロの米、レトルト食品、インスタントラーメン、おかし等)をお渡ししました。フードバンク奈良の拠点としてお借りしているコープふれあいセンター六条でも配布され、3月は申し込み者全員に渡せることになりました。

● 寄せられた声 ●

- ・頼れる両親などいないため、コロナでこれからどうなるのかとても不安でしたが、助けていただける方がいるとわかってとても安心しました。
- ・フードバンク本当に助かりますが、お菓子ばかりでは、食べ盛りの子どもの二人もいるので、主食をメインに入れてもらえる方が助かります。



2月奈良市役所玄関ホールでのフードドライブ活動

— 講演会 —

コロナ禍 と 気候危機**～COP26に向けて広がる『実質ゼロ宣言』と新時代の気候アクション～**

主催：NPO法人サークルおてんとさん 共催：奈良県生協連ほか

2月14日、コロナ禍、検温・消毒などの感染予防対策をして、講演会「コロナ禍と気候危機」講師：伊与田昌慶氏（認定NPO法人気候ネットワーク主任研究員）が奈良県文化会館小ホールで開催されました。講師の伊与田さんは、2007年より国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP）に毎年参加し、交渉をフォローし、気候変動交渉・政策の提言に取り組んでおられる方です。



講師の伊与田昌慶さん



会場の様子

コロナ禍ではありましたが、生協関係者、行政やNPO、市民など47名の方が参加され、活発に質問が出されました。菅義偉首相の「2050年カーボンニュートラル」宣言のいきさつや、世界から求められるCOP26でのアフターコロナの新しい気候アクションについて、国内外ではどう動き出し、私たちがやるべきことは何なのかを、知る機会となりました。

◆伊与田さんの講演概要◆

2020年は一番暑い年でした。地球全体の平均気温はすでに1℃上昇し、今、対策を打たなければ今世紀末までに4℃上昇してしまう。2015年COP21で採択のパリ協定は、①1.5～2℃未満に抑える ②化石燃料の終わりを示す ③自然エネルギー100%の時代へ転換を始める ④お金の流れをクリーンにする ⑤1.5℃目標に向けて永続的に対策を強化し続けることを示すものです。2019年COP25では「『気候非常事態』と呼ぼう」という認識で、温室効果ガス排出削減目標の引き上げと石炭中毒からの脱却が求められています。また、COPでの重要な議論は「ジャスト・トランジション＝公正な移行」であり、世界では化石燃料関係の会社の労働組合と学者たちで話し合いを開始しています。雇用の移行には社会全体で前準備が必要であり、日本だけが取り残される懸念があります。COP25では「最大限の野心の反映」するよう奨励されていることから、2030年までに2010年比45%削減、2050年ゼロを世界が宣言するようになりましたが、日本はまだ石炭火力発電所を新設しようとしています。日本の排出量の9割はエネルギー起源。電源構成により市民の節電効果は飛んでしまいます。脱石炭、脱原子力、再エネ100%の社会は実現可能。政府ではエネルギー政策を検討中ですが、再エネ慎重派、原発石炭火力推進派のメンバーの声が大きいのが現状です。もっと市民が声に出して日本のエネルギー政策を変えていく必要があります。日頃から関心を持ち、地元的环境団体の会員になり応援することも大切です。

— 寄せられた感想 —

・頭の中で色々考えている事が、整理された。気候危機が本当に危機感を持って語り合える「場」「状況」が必要。造らなければ。

・「事実を知る」ことの重要性を知りました。気候でのジャスト・トランジションでは、コロナの社会実験を繰り返さないよう2～3年先の地域社会像などを示す必要が。

・カーボンニュートラル実現に向けて私たち市民は何が出来るのか、何をすればよいのかの議論が必要。今日のセミナーの参加者のほとんどが高齢者。もっと若い人たちに参加してほしい。

声明

核兵器禁止条約の発効を歓迎し、 核兵器のない世界を！

～戦争被爆国日本の条約への批准を求めます～

2021年1月23日

奈良県生活協同組合連合会 理事会

2021年1月22日 ついに核兵器を全面禁止する核兵器禁止条約が発効しました。広島・長崎に原爆が投下されてから75年、核兵器を違法とする「世界のルール」ができたことにより、ようやく「核兵器のない世界」への扉が開かれます。

核兵器の廃絶を願う被爆者と世界の人々の悲願であった核兵器廃絶に向けた大きな一歩となります。

条約前文では、「いかなる核兵器の使用も国際人道法に違反し、人道の諸原則・公共の良心に違反する」とうたっています。

条約の発効により、核兵器は、開発、製造することも、実験、備蓄、移動、配備、使用及び使用による威嚇もすべて禁止するはじめての「国際規範」が確立したことになります。

奈良県生協連では、創立以来、ピースアクションなどを開催し、被爆の実相を学び核兵器のない世界を目指し、私たちにできることを考え会員生協とともに市民と交流してきました。また、核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議へ代表を派遣し核兵器廃絶を訴えてきました。そして2016年に「後世の人々が生き地獄を体験しないように、生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」との思いから、ヒバクシャが呼び掛けた「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が呼び掛けるヒバクシャ国際署名」にも会員生協と取り組みました。県内市町村長にも署名の賛同をはたらきかけ、奈良県知事、県会議長をはじめ37市町村長の賛同を得ることができました。署名に託された一人一人の思いが核兵器禁止条約の成立に大きな力添えとなりました。

現在、世界には13,400発の核兵器が存在し、核兵器による人類滅亡の危機は去っていません。

広島・長崎に落とされた原爆は、75年経った今も被爆者の「からだ」「くらし」「ところ」にわたる被害を及ぼし続けています。核兵器は、最も非人道的兵器であり、私たちは核兵器と共存することはできません。しかし、核兵器保有国とその核の傘下にいる同盟国は核兵器禁止条約に背を向け続けています。残念ながら唯一の戦争被爆国である日本もその仲間に入っています。

私たちは、唯一の戦争被爆国の日本が核兵器禁止条約を批准し、被爆者の思いに寄り添い「核兵器が全面的に違法なもの」とであるという国際世論の喚起に、先頭に立ってその役割を果たすことを要望します。

私たちは、「核兵器のない世界」を目指し、引き続き被爆者の思いや核兵器廃絶の願いを広げていきます。

県防災統括室懇談会

12月23日に関西広域連合応援訓練(12月2日)の振り返りを兼ねて県防災統括室との交流会を開催し、情報交換を行いました。防災統括室から北畑雄一郎(防災統括室室長補佐)、向井裕文(同係長)、宮本拓磨(同主任主事)の3名、ならコープから2名(木村部長、森BCP担当)、奈良県生協連(山本専務)が参加しました。

双方の取り組み報告の後、新型コロナウイルス感染対応、緊急物資の協定、商品調達方法について意見交換しました。

((オンライン))

奈良県防災プラットフォーム主催災害支援研修

奈良県防災プラットフォーム連絡会(県社協ボランティアセンター事務局)主催で2月19日にオンラインで災害支援研修「三者連携の必要性について」、「情報共有会議」、「2020年7月豪雨災害被災地の状況を通じてコロナ禍での災害ボランティア対応」などを企画し、開催されました。



※奈良県防災プラットフォーム連絡会
現在23団体(奈良県生協連、ならコープ、こくみん共済COOP奈良推進本部含む)が加入し、各参加団体が災害時に各団体の特性や機能を活かした被災地支援や防災・減災を図ることとしています。

((オンライン))

関西災害時物資供給協議会総会



令和2年度関西災害時物資供給協議会の総会が3月15日に開催されました。令和2年度活動報告、防災取組事例報告、震災クロスロード(講師:京都大学防災研究所 矢守克也教授)があり、奈良県生協連(山本専務)が参加しました。

((オンライン))

第23回近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会

2月24日に24名の参加で開催されました。意見交換会を通じて農業全般の情勢や課題を学び、他生協の取り組み報告を聞ける貴重な場となっています。大坪正人近畿農政局長から「食料・農業・農村を取り巻く情勢等」、齊藤敏明近畿農政局消費・安全部部長から「食生活の現状と食育の推進」報告があり、質疑交流しました。また、生協エスコ大阪「生産する消費者として消費材と持続可能な産地をつくる」、京都生協「新型コロナによる農産・地産地消売り場への影響」、コープしが「『魚のゆりかご水田米』の取り組みと県内JAとの連携」について各取り組み報告があり、意見交換を行いました。



近畿農政局との意見交換会の様子

写真で見る 奈良県生協連の30年

1990年～1999年

1990年 3月8日 設立総会 共済会館やまと



奈良県下5つの生協（労済生協・ならコープ・奈良女子大生協・教育大生協・おやさと生協）の共同・連帯で生活と文化の向上、平和な住みよい街づくりをめざし設立されました

1996年



奈良工業高等専門学校生活協同組合創立（全国はじめての高专生協）

1991年



奈良県市民平和行進
1990年から2005年まで

1994年



県連理事・事務局研修
兵庫県連・コープこうべ協同学
苑等へ優れた先進的な活動を
学ぼうと研修訪問しました

1997年



アースデースプリング in なら
（1990年からならコープ
と共催 以降毎年開催）

1992年



第1回組織活動研修
交流会

1995年



県立商科大学生活協同組
合創立（現：奈良県立大学）

1993年



第1回協同組合デーのつどい
協同組合間の連帯を誓って
「つどい」開催 以降毎年開催

1995年



フレンドシップトレインひまわ
り号1994年から2003年まで

1999年



第10回奈良県生協大会
「世代間の共生をめざして」

2010年～2020年

2010年



創立20周年
記念式典
荒井正吾
奈良県知事
講演会

2011年



ピースアクション in なら
核兵器のない平和な世界をめざして！
～秋葉忠利前広島市長と語ろう～

2012年



東日本大震災 被災地支援
福島の子供も保養プロジェクト（2012年
から2019年までならコープと共催）

2012年



奈良県医療福祉生活協同組合創立

2013年



なんゅう祭
深層崩壊現場（迫地区）対岸か
ら見学する大学生協学生委員

2014年



会員生協役職員研修会
「奈良県における大規模災害
と防災対策」河田恵昭氏

2015年



NPT再検討会議代
表団活動へ
2005年奈良県立大
学生岡本拓郎さん
2015年に奈良教
育大村上泰三さん
を派遣
2020年コロナのた
め中止

2000年～2009年

2000年

第8回協同組合デー
「食と健康」

2001年

なら森を育てる祭典
はぐもう、豊かな森と
豊かな郷土

2002年



生活協同組合コープ自然派奈良創立

2003年

1999年から「食品
衛生法改正の署名運動」に取り組み「食品衛生法」
改正が実現

2004年



第1回消費者問題研究会

2005年

第16回奈良県生協大会
被爆60年企画「語ろう平和、考えよう世界の中での日本の役割
～今私たちにできること～」筑紫哲也氏講演

2006年

奈良県生協連大学部会主催
(奈良県5大学生協)「大学生協合同新歓」

2007年

奈良県生協連大学部会主催
協同学苑内賀川豊彦記念館・
人と未来防災センター見学

2008年



県連あり方検討会議

2009年

COP15代表団
(コペンハーゲン
・バルセン
美術館前でデモ
ンストレーション
する奈良県立大
中島光さん

2007年

サステイナブルなひと、
生活クラブ
生活クラブ生協創立

2016年

第27回奈良県
生協大会
ひとりぼっちを
つぐらない
～子どもたちの
未来と共生社
会を考える～
湯浅誠氏

2017年



奈良子ども食堂ネットワーク設立

2018年

第11回食の安全懇談会
食品衛生法改正でどう変わる
のか? FOOCOM(フーコム)
代表の森田満樹氏

2019年

第29回奈良県生協大会
「SDGsの目指すもの
私たちの役割」
黒田かをり氏

2020年

第30回奈良県生協大会
「食品ロスをへらすために
私たちが出来ること」
井出留美氏

2020年

奈良県生協連創立30周年記念式典
創立当初に掲げた「平和と住みよいまちづくり」
をこれからも大切にし、持続可能な開発目標
SDGsの実現に向けて助け合いの組織として
会員生協と共に取り組んでいきます

1月

5日(火) 新年挨拶訪問
12日(火) 日本生協連全国方針検討集会
21日(木) 第5回生協連理事会
23日(土) 第3回県内被爆者証言集
編集委員会
28日(木) 日本生協連地連運営委員会
県連活動推進会議

19日(金) 奈良防災プラットフォーム
災害支援研修
22日(月) なら健康・省エネ住宅推進
県民会議幹事会
24日(水) 近畿農政局と近畿地区
生協府県連との意見交換会

13日(土) 3.11企画映画会「星に語りて」
15日(月) 令和2年度関西災害時物資
供給協議会総会
16日(火) 奈良県農政活性化推進委員会
18日(木) 第6回生協連理事会
19日(金) 第二回ビジョン検討委員会
(日本生協連二村睦子氏講演)

2月

14日(日) おてんとさん講演会(共催)「コロ
ナ禍と気候危機～COP26に向
けて広がる『実質ゼロ宣言』と新
時代の気候アクションへ～」

3月

1日(月) 第一回ビジョン検討委員会
2日(火) 日生協ピースアクションキック
オフ集会
12日(金) 第3回近畿地区生協府県連
協議会(福井)

23日(火) 奈良県消費生活審議会
27日(火) 第4回県内被爆者証言集
編集委員会
30日(火) ピースアクションをすすめる会
31日(水) 日本生協連地区別総会議案
検討会議
31日(水) 日本生協連地連運営委員会

公示

奈良県生活協同組合連合会 第32期通常総会開催について

当会 定款 第49条にもとづき、奈良県生活協同組合連合会第32期通常総会を下記の通り、開催致します。

奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之

1. 日時：2021年6月26日(土) 10:00～12:30

2. 場所：奈良ロイヤルホテル 〒630-8001 奈良市法華寺町254-1

3. 議案：第1号議案 2020年度事業報告・決算関係書類承認の件 第2号議案 2021年度事業計画及び予算案決定の件

第3号議案 定款の一部変更の件

第4号議案 役員選任の件

第5号議案 役員報酬決定の件

4. 選出について：会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は、会員ごとに定める選出方法により選出し、
会員生協の定数は各3人とします。

編集後記

世の中、コロナ禍でずいぶんオンラインが普及して
きました。生協連もなんとか世の中の動きについ
ていこうと四苦八苦しています。今までもリアルイ
ベントの運営上のプレッシャーはありましたが、オ
ンラインでのイベントの不安は比較になりました。
とにかく回線に不備が起きないか、映像が止まった
りパングしたりしないか。その怖さはいつもあり、
いくら事前にテストしても、本番での動きは予期で
きません。とにかく何が起きるか分からない！こち
らの通信環境の問題だけでなく、参加者の環境も関
わってきてもなりません!!画像が停止などし
ようものならこちらもフリーズしてしまいます。
今までに無い緊張感をもって日々過ごしています。

(弘)

寒かったかと思えば急に春のように暖かくなり、今
年はわが家のシナノミザクラが2月中に咲いてしま
いました。受粉してくれる虫がまだほとんど出てき
ていないので、これではあまりサクランボができま
せん。自然はバランスが大事ですね。

(順)

「春は別れと出会いの時期」といわれるが、寂し
くもあり次の人生のスタートを祝いたいと思
う。やっとなが小学校に入学。先日、NPT再
検討会議に参加予定だった県立大学の宮本さんが
県連事務所を訪ねてくれた。2020年度はコ
ロナ禍で大変な年でもあったが、それぞれ次に向
けてしっかりと芽をはぐくんできた。がんばれ。

(和)

桜を楽しめなかった去年の春から1年がたち、世
の中はまだまだ落ち着きはしていません。でも季
節を楽しむことは出来そうかな？希望がそま
で来ているような春の陽気に誘われ、桜の中を散
歩でもしようかと思っています。♪春よ来い
く来い♪

(佳)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043

URL <https://www.narakenren.coop/>